



園芸作物栽培に関する  
これからの対策  
と  
Q&A

◎夏野菜の共通管理について

高温乾燥が続くので余分な枝や葉は剪定し、通風採光を図ってください。また、突然の大雨や強風で樹が傷まない様に支柱への誘引をしっかり行ってください。株元は乾燥防止と地温上昇を回避するために敷きワラ等を行いましょ。水やりの原則は早朝ですが、高温乾燥時期では不足する日もあります。昼すぎに葉が垂れたり巻いたりするよう時は、夕方にも水を与えましょう。日中に水をやるのは避けましょう。

◎夏野菜品目別管理

○トマト・キュウリ

通常7月いっぱいまで終わります。家庭菜園では終盤は変形果や裂果、尻腐れ果の発生が多くなり品質が低下してきます。収穫終盤になったら摘芯と整枝を行うと品質も若干良くなります。

○ナス

10月後半まで収穫可能ですが、秋に良い実を収穫するためには7月下旬に切り戻し剪定を行ってください。収穫を途切れさせたくない場合は、切り戻しを軽くするか、切り戻しをしない樹を何本か残してください。切り戻し剪定は、3本の主枝の他に元気の良い枝を2〜3本残し、それ以外の枝は切り落としてください。残した枝は、葉を2〜3枚残して先端を切り詰めます。剪定後、追肥と灌水をし、敷きワラをしてください。

○スイカ

これから収穫期間に入ってきます。収穫目安を開花後45日程度、スイカが卵サイズになってから38〜40日後程度です。どちらともわからない場

合は、スイカに近い巻きヒゲが半分以上枯れている・成り首（果梗部）がやや窪んでいる・手で叩いた音がやや低く響くようになったら収穫時期です。

○マクワウリ類

マクワウリは着果数が多く、開花口の把握が難しいので外観での収穫判断になります。収穫期になると果皮がレモンイエローからオレンジがかかった濃い黄色に変わってきます。銀泉マクワの場合は縦縞の部分から青みが抜けてきますので、これを目安としてください。マクワウリの食べ頃は3日程度と短く、果肉がすぐに軟らかくなるので注意してください。

○西洋カボチャ

収穫時期は着果から50日程度となりります。わからない場合は、果梗部が緑から褐色に変化してきますので、褐色部分が三分の二以上になり、果梗部に爪をたたくと、食い込むのに抵抗を感じる頃が収穫時期です。収穫して1〜2日間は果梗部を上にして風通しの良い場所で乾燥させてください。湿気が多い場所はカボチャが腐りやすいため注意してください。

○スイートコーン

もう収穫されていると思いますが、収穫時期は絹糸が褐変し、主茎と実の角度が広がった頃です。



○イモ類

イモ類は元肥主体ですが、生育が思わしくない場合はそさい3号を坪あたり50グラム程度施用してください。

◎病害虫の予防について

高温期の病気は、基本的にうどん粉病以外発生しません。むしろアブラムシやダニが多発してきます。秋になるとハムシやヨトウムシ、アオムシが目立ってきます。発生を確認してから農薬を散布しても次から次へと孵化してくるので押さえきれませんので、早めの予防防除を心掛けましょう。

◎秋野菜の準備

○播種・育苗

今月は早いもので、秋野菜の準備が始まります。7月下旬からキャベツ・ブロッコリー、8月に入ると白菜、お盆を過ぎたらレタスの播種となります。8月下旬に入るとキャベツ・ブロッコリーの定植とダイコンの播種が始まります。

○害虫防除

秋野菜は播種後約1ヶ月後からの定植が始まります。従って圃場準備はお盆過ぎから始まります。近年、土壌害虫の発生が多くなっていますので、土壌処理剤の施用は欠かせなくなっています。特に、根部を加害するキスジノミハムシやネキリムシの対策としてダイアジノン粒剤やスタークル粒剤は必ず施用しておきましょう。

ネキリムシの防除

カブラヤガなど蛾の幼虫がネキリムシの正体である。昼間は土中に隠れ、夜間に移動して野菜苗の地際部を食害し切断してしまう。老齢幼虫になると、一晩で数株を加害するので被害が大きい。



収穫直前のレタスでも数匹のネキリムシが集って食い倒してしまう。

ネキリムシは移動距離が大きいので次々と被害にあう。

他にコガネムシ類の幼虫もネキリムシと言われることがあるが主に地中で根部を食害するため、イモ類の被害が大きい。



コガネムシの幼虫

防除剤(土壌処理剤)

ダイアジノン粒剤5  
カルホス微粒剤F  
フォース粒剤  
なお、発生後は株元散布剤として  
ネキリエースK  
がある。

使用にあたっては登録内容を確認の上施用してください。

キスジノミハムシ  
の防除

この虫は幼虫が地中でダイコン、カブなどの根部表面を食害し、品質を著しく落としてしまう。また成虫はアブラナ科野菜の幼苗の葉を食害し穴だらけとし、初期生育を阻害する。



成虫の食害痕




食害痕

防除剤(土壌処理剤)

ダイアジノン粒剤5  
フォース粒剤  
スタークル粒剤  
なお、発生後は散布剤として  
スタークル顆粒水溶剤  
モスピラン顆粒水溶剤  
を散布する。

使用にあたっては登録内容を確認の上施用してください。

お問合せ先  
  
 東部ふれあいセンター内  
 営農生活課 担当: 高橋  
 TEL.0778-51-8004

バックナンバーはJAたんなんホームページ  
<http://ja.tannan.com/> 広報誌をご覧ください。